

安城市温室園芸組合について

1 組織の概略について

安城市では、昭和25年頃から農業生産を目的に始まった観葉植物の栽培が、施設花きの始まりと言われていました。

その後、昭和39年に生産と販売の一元化や所得の増加を図ることを目的に安城市温室園芸組合（以下、「組合」という。）が発足しました。現在、安城市、碧南市、刈谷市、高浜市の花き生産者66名が所属しています。

活動の主体は、品目別に設置されている4つの部会（観葉植物、洋らん、鉢花、切花）が中心となり、新技術の研究や市場視察などを行うとともに、愛知県花き温室園芸組合連合会や花き市場などが主催する研究会や品評会などにも積極的に参加するなど、関係団体と協力して花の生産振興と需要拡大を図っています。

また、毎年10月と2月に、市場などを産地に招いて「見本市・交流会」を開催し、情報交換や商談の場として活用しています。他にも、七夕まつりや農協まつりなどで展示即売会を開催するなどして、消費拡大に努めています。

2 主要品目や特徴的な取組みについて

主要品目は、鉢物（観葉植物、洋らん、鉢花）及びキクで、幅広い種類を生産しており、消費者ニーズにあった良品生産を心がけています。

他にも、オリジナル品種の育種や他産地にはない品目の生産など、特徴ある取組みを行っている生産者が多い産地です。

なお、「グリーンウェーブ」という組合員の後継者の集まりがあり、現在13名が所属しています。この組織は、部門を超えて交流を図り、産地の継続的な発展に貢献することを主旨に、組合とは別に市場視察や技術等に関する情報交換などを自主的に行っています。